

平成27年2月28日(土)

老球の細道121号

## 俺流 贈る言葉

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

禅の言葉に「啐啄同時(そったくどうじ)」というのがある。卵の中の雛鳥が殻を破ってまさに生まれ出ようとする時、卵の殻を内側から雛がコツコツとつつくことを「啐(そつ)」といい、ちょうどその時、親鳥が外から殻をコツコツとつつくのを「啄(たく)」という。ヒナ鳥が内側からつつく「啐」と親鳥が外側からつつく「啄」によって殻が破れて中から雛鳥が出てくる。この一瞬のタイミングが生死を分ける。親鳥の「啄」が一瞬でも誤ると、中の雛鳥の命は危ない。早くても遅くてもいけない。同時でなければいけない。このことから、両方が一致して雛が生まれる「機を得て両者相応じる得難い好機」のことを「啐啄同時」という。

3月1日は高校の卒業式である。卒業式の「卒」の字はこのたとえ話から引用されている。生徒をヒナ鳥に、先生を親鳥にたとえ、先生と生徒が意気相合して、生徒が自立していく能力が備わったと見て、先生(学校)は生徒に巣立ちを促し、生徒もこれに応じて学校から旅立つ。まさにこの自立の瞬間が卒業式である。

卒業生は卒業後、進学、就職に人生の進路が分かれようとも、今後は社会において「大人」として扱われるようになる。特に、法の改正で18歳から選挙権が与えられるようになるかもしれないというご時世である。近い将来18歳が日本の大人の基準になるやも。

しかし、年齢が18歳になったり、選挙権を得たり、就職をしたり、そして結婚をしたりすると社会的に「大人」として認められるが、人間として「真の大人」になれたわけではない。青年は荒野を目指し、真の大人へ成長していかなければならない。

真の大人とはどのような人間か。俺流になるが二つのキーワードがある。

一つは、「ケチらない」こと。お金のことではない。自分の持っている能力、可能性を自分で限界を決めないですべて出し切ってしまうことだ。何事にも出し惜しみしないで全力投球すること。それによって、自分自身の真の実力が明らかになり、色々な状況の中で自分自身の実力に応じた判断、行動ができるようになる。

残念ながらほとんどの人は色々なところで力を出し切っていない。高校時代の体育授業の持久走を思い出してほしい。走り終わった後、まだまだ余力の残っている自分に気がついたことはないだろうか。可能性を自ら捨てている。ああ、もったいない。

二つめは、「グチらない」こと。自分自身の実力不足、努力不足を他人のせいしたり、環境のせいにして言い訳がましい愚痴を言わないことだ。「グッチ」のバックを持つのは恰好よく、大人になったような気がするが、グチ(愚痴)を言うのは、聞いている人に不快感を与え格好悪い。愚痴を言っている自分自身を努力、精進から逃避させてしまう。

「言い訳は 心を削る カンナかな」

真の大人とは愚痴で逃げる前に前進あるのみ。走れ、走れ、コータロー♪。「グッチャー」(愚痴ばかり言う人)は現状維持、あるいは後退するのみだ。どちらが楽しく人生を謳歌できるだろうか。彼氏、彼女にしたい人、一緒に仕事をしたい人はどちらだろうか。

これから人生の荒野を目指し「真の大人」にならなければならない卒業生諸君たちに、この二つを贈る言葉とする。まだ真の大人になりきれない私自身への戒めも含めて。